

# 町の成り立ちと歴史まちづくり

この地区の魅力は、町家が残る街道筋、寺ノ下寺院群の寺筋、舟運時代の御蔵、舟橋跡の川筋と多様な暮らしが息づいていることです。

江戸から明治時代にかけて、北上川舟運の起点、奥州街道、宮古等街道の城下玄関口として重要な場所でした。

川港・新山河岸から川原町には問屋、運輸等に関する店が並び、惣門周辺には、糸治（移築：国重文）木津屋（県指定）等の大店が並びました。

一方、鉦屋町は、街道筋の農村を背景に庶民的な町として発展してきました。

また、湧水に恵まれ、青龍水、大慈清水、酒蔵はあさ開、旧岩手川の建造物が残ってきました。

明治23年に、東北線盛岡駅が開業し、鉄道の時代を迎えると徐々に町家は住居化して現在に至ります。

近年、28 年に拡幅する都市計画道路が事業決定され、にわかに注目が集まりました。その中、平成15年の暮に、住民と専門家が集まり、盛岡まち並み塾が設立され、町家の暮しと町家等の歴史的建造物を保存活用する活動がはじまります。

現在、都市計画道路を廃止して、地区全体の歴史的資源を活用したまちづくりに発展しています。

## 盛岡町家とまち並み

ななやちょう だいじちちょう みなみおおどおりにちょうめ そうもん てらのした みなみおおどおりさんちょうめ かわらちょう しんざんがし  
鉦屋町、大慈寺町、南大通二丁目（惣門、寺ノ下）、南大通三丁目（川原町、新山河岸）



盛岡町家が並ぶ街並み



盛岡町家の内部



もりおか町家物語館



御蔵一丁史料館

盛岡町家は「こみせ」の内土間化した柱持ち下屋を持ち、平入りの町並み。平入りは北東北では旧南部領に分布。

町人の職住一体の居住形式で、表から裏に通る土間「ろーじ」が通り、母屋、坪庭、蔵が基本。常居「じよい」の吹抜けが特徴。

江戸「近藤」～大正「浜藤」酒蔵・旧岩手川工場を活用した町家の見学施設。ホールの利用が可能。毎月第4火曜定休。営業時間9時～19時。

旧備考蔵。江戸時代からの町家暮らし、新山舟橋、丁印等の資料約2,000点を展示。4月から10月の土日曜日開館。入館無料。



盛岡町家三三亭



旧盛中図書館

明治後期の町家。旧毛皮商藤原峯治商店、女優三原葉子生家。庭には宮古市から移築された旧盛岡中学図書館がある。スペース利用が可能。



大慈清水御休み処

明治34年頃築町家を平成19年に地域の活動拠点として、盛岡まち並み塾による第一号借上げ改修活用町家。まちの案内所、町家見学、改修相談窓口、喫茶。またレンタルスペースとして各種利用が可能。営業時間10時～16時 水曜定休

触れることは、大切に残すための近道

## 大切に使われ今に残る共同井戸



大慈清水



青龍水

## (原敬・米内光政) 先人が眠る墓所・寺院群



大慈寺



米光寺

暮らしのいきづくまち並み

## 春夏秋冬の歳時記

- 4月「盛岡町家旧暦の雛祭り」  
「御蔵の雛祭り」
- 5月「盛岡町家de手づくり市でどらんど」
- 8月「迎え火送り火」/8月14～16日  
・黒川参差踊り門付け /8月14日  
・舟っこ流し花火大会/8月16日
- 9月「八幡宮例大祭」
- 10月「盛岡町家de手づくり市でどらんど」  
「御蔵祭り」
- 11月「あさ開 新酒蔵祭り」
- 1月「神楽の奉納」

盛岡町家旧暦の雛祭り



春

黒川三差踊り門付



八幡宮例大祭



秋

神楽の奉納



冬



「盛岡市街並み保存活用推進協議会」

岩手県盛岡市内丸12-2 盛岡市商工観光部観光交流課 内 TEL:019-651-4111

【お問合せ】「NPO法人盛岡まち並み塾」 営業時間10時～16時 水曜定休

岩手県盛岡市鉦屋町3-15「大慈清水御休み処」内 TEL・FAX:019-656-1603

https://www.machinamijuku.org mail:machiya@theia.ocn.ne.jp